

編集 後記

この5月末に「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の一部改正版が全面施行されました。新指針は従来から行われている研究も対象とするため、全面改正を前に新指針への対応に追われた学会員も多かったことと思います。

さて本号には原著3編、資料1編が掲載されています。いずれも「人を対象とする医学系研究」に該当する疫学研究です。わが国で進行中の少子高齢化を反映してか、3編が高齢者、1編が学童を対象としています。高齢者対象の論文では、佐方らは経済的にゆとりがない後期高齢者が自宅退院を選択している可能性を示しています。佐藤らは中山間地高齢者において膝痛の有症率が3割を超えていること、女性や年齢が高いほど有症者が多いことなどを報告しています。横川らは、松本市の社会福祉協議会が実施している「支え合い事業」に登録した独居高齢者のうち、実際に利用した高齢者としていない高齢者の比較結果を資料として報告しています。それぞれ健康日本21（第二次）の基本的方向性のうち「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」「社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上」「健康を支え、守るための社会環境の整備」に視点をおいた研究であり、わが国における公衆衛生上の課題解決に向けて時宜を得た研究と思われる。梶本らの論文は今回唯一学童を対象としており、登校回避感情を持っている学童が3割を超えていること、登校回避感情を持つ学童に生活習慣上の課題が観られることなどが示されています。健全な学童の成長を支援するために今後のさらなる発展が期待されます。

なお本号の論文はいずれも学術的な研究でしたが、本誌では公衆衛生活動報告も重要視しています。査読や編集も論文の完成を支援するという立場から行っておりますので、現場で活躍されている学会員からの活発な投稿をお待ちしています。

(田邊直仁)

次号予告（第64巻・第7号）

原著

- 顔面および口腔内の過敏症状を有する要介護高齢者の口腔機能および栄養状態に関する実態調査
 ……………白部麻樹, 他
 在宅医療推進のための多職種連携研修プログラム
 開発: 都市近郊地域における短期的効果の検証
 ……………土屋瑠見子, 他
 中高年者縦断調査を用いたソーシャル・キャピタル指標の作成と妥当性・信頼性の検討
 ……………相羽美幸, 他

資料

- 介護認定を受けた高齢者の認知機能変化に関する研究
 ……………堀口美奈子, 他